

HOSUプロジェクト 動く!!

観光課観光振興係 ☎ (25) 1157



鳥羽

伊勢えび
千匹干し

鳥羽市では「遷宮奉祝」と「海女」をキーワードに「祝い」と「海女文化」を軸とした取り組みをHOSUプロジェクトとして活動しています。

6月に行われた御潜神事の再現イベントに続く次のイベントは「伊勢えびの千匹干し」です。鯛や鮑とならびおめでたい席には欠かすことのできない食材である伊勢えびは長いひげと腰の曲がった姿から、長寿を祝う縁起物とされる「日本の祝い魚」の一つです。



伊勢えび

鳥羽の離島では伊勢えび漁が一足早い解禁を迎えています。

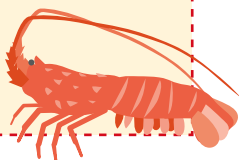
そしてその離島の中でも特に伊勢神宮の方角から強い風

が吹く菅島では、この西風と太陽の恵みで作る伊勢えびの干物が誕生しました。菅島旅館組合の5人が試作を繰り返し完成した伊勢えびの干物は、祝いの席にはもってこい一品です。伊勢えびを千匹並べて干すという庄巻の風景を作り出し、見ても食べても楽しめるイベントを開催します。



菅島旅館組合の5人

●とき
10月8日(火)
午前10時(雨天順延)
●ところ
菅島・しろんご浜



撮影：加藤 昌人

鳥羽のあまちゃん100人 上京! 食と祝の祭典

日本で一番海女の多いまち・鳥羽から海女姿100人の女性が東京六本木でPR活動を行います。白い上着にカスリの腰巻、頭には白い頭巾という鳥羽の海女独特のスタイルのまま鳥羽から近鉄、新幹線を乗り継ぎ東京六本木へ向かいます。会場では、海女姿100人によるPR、伊勢えびの干物をはじめとした鳥羽の食材を使った食の提供、また結婚30年目を祝う愛の再宣誓式「真珠婚式」が行われます。

とき 10月14日(月・祝) ところ 東京六本木ヒルズアリーナ 観光課観光振興係 ☎ 251157

海女100人キャラバン隊インタビュー



菅島 松村 光世さん

漁で獲れなくても海女友との会話が楽しい

海女になったのは19歳で嫁いってからで、海女歴は41年になります。海女漁は命がけの大変な仕事、やる気がないとできません。でも潜ったら楽しいですし、海女友との会話は漁で獲れなくても楽しいです。

6月に国崎で開催された「御潜神事の再現イベント」に参加し、他の地域に海女友達ができることができました。みんなで東京へ行けばきっと楽しいイベントになるでしょう。



菅島 中村 ももさん

鮑とトコブシの見分けはまだ付きません

夫のUターンに合わせ鳥羽へ嫁ぎました。鳥羽へ来るまで海女の経験はありませんでしたが、もともとプールで泳ぐときには潜水が得意だったので、海女として潜ることに抵抗はありませんでした。はじめて海へ潜ったときには岩場にアラメがたくさん生えていて何が出てくるかわからない、怖いイメージでした。今までに獲ったことのある獲物は、小さい鮑やトコブシ、タコ、小魚ですが、小さくて海へリリースすることが多く、鮑とトコブシの見分けはまだ付きません。離島の生活は慣れるまで大変でしたが、島の人があつたかくいい人ばかりです。

安楽島 小久保 明香さん



おじいちゃんの釣った魚が一番おいしい

今回のイベントの情報は高校の先生から教えてもらい、とても楽しそうなイベントだと思い応募しました。海女の経験は全くありませんが、たまにおじいちゃんの船と一緒にいっていき、おじいちゃんの仕事をそばで見えています。鳥羽は海がきれいですが、私にはおじいちゃんの釣った魚が一番おいしいです。

安楽島 宮村 千登世さん

海女100人が東京へ行くことをTVで知りました

TVの番組内で「海女姿100人が東京へ行きPR活動を行う」ということを市長が話されているのを見て、この素敵な企画にぜひ参加したいと思い申し込みました。

海女の経験はありませんが、子どものころから海のことを獲る生活は身近な存在でした。もしこれから海女になる機会があるとしても、自分では怖くて難しいですが、鳥羽の誇り、貴重な文化として発展してほしいです。

答志 武中 美和さん

大きい鮑を獲った時の喜びは忘れられない

本格的に海女漁を始めたのは20歳くらいの時、現在海女漁へはあまり行っていませんが、目の前が海なので夏の暑い日には海へ入りたくなります。潮に流され怖い思いもしましたが、大きい鮑を獲った時の喜びは今も忘れられません。都会では経験できないことがたくさんある鳥羽へぜひお越しください。お・も・て・な・しの精神でお待ちしています。



武中さん 橋本さん

答志 橋本 鶴枝さん

若いころに海女着を着てPR活動

海女歴は40年以上で、子どものころから遊びとして海女の見習いをしました。

若いころには武中さんと一緒に海女着を着て、PR活動をしたことがあり、赤目四十八滝の滝つぼにも潜った経験があります。楽しかったPR活動を思い出して今回のキャラバン隊へ申し込みをしました。鳥羽はおいしい食べ物だけでなく、都会にはない景色や香り、細い路地の風景などがあり、まだあまり知られていない鳥羽の魅力を伝えたいと思います。



宮村さん 藤村さん

安楽島 藤村 由紀子さん

機会があれば一度くらい海女にチャレンジしてみたい

今回は友達(宮村さん)に誘われて応募しました。海女の経験はありませんが、機会があれば一度くらいチャレンジしてみたいと思っています。

海女着は少し恥ずかしいですが、これから着る機会がないと思うと貴重な経験ができ楽しみです。鳥羽の海女さんはみんな生き生きといて、元気で明るく女性として尊敬する存在です。